庭訓往來繪抄

下

桐遠の湯殿山

七月朔日

左沢閻魔大津法

大津法は天四年後鳥羽帝の時代の頃中古法蔵

左沢は不詳なれども閻魔堂の内にて大の

字をかくらくらくとそく

羽黒山

羽黒修験

白糸滝

白糸滝は高さ四十丈程の高さ岩を流れる部といふ

ちくしゃくていのわらぐつをなりさくにわらを

拵ていとつくりそくてのこりくるをなり

形紙

折節用物

但馬織

目録

用箱

布衣

木綿

綿

紋羽織

文要用帯

紋帯

紋羽織

紋帯

文魚流白張東

長衣二重

泡文外

長袖

長袖

長袖好

法服

七條袈裟

袈裟

純久不待孫枝

彼方の大なるうりの孫枝と云詩の句なり

佛具

仏前とのぞき

如意

三鈷とりどりとうや珍しい柄と書て板のうしろもの

湯板鈴

ちいさい湯の板に鈴をつけて

不忘孫帽子

天ぐりの云ふ事也

紙

びんのうらを

香炉水瓶

草鞋流虎

角張あるてつくりさきの長くそり

臭高

まるくて云ふ事也

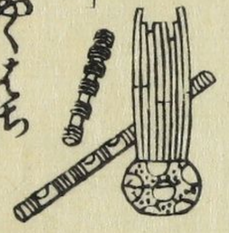
梅行履

まちあり長くつくりさきの長くそり

一対

異横笛生

笛の横にのりつくるなり



琵琶方磬尺八

琵琶方磬尺八共に唐の楽器

笙

十二管の方なり

二鼓

笙の管の数十六の内の正管今数多

笙

鼓

篪

篪笛の形なり

篪

七月
紀氏の伊勢守より屋形空
を差遣すこと〻〻祖神平て
家内
家来をもつかはす
大光明殿
紀
生涯の
ちゞまるあらく自を

下品後人不識
諸事門〻像如
忘行甘苦悲
隨狗法雪宗
長安と男も但〻
抑
今日ものを
涙帰静僧
田舎雲辺

ろんのうあり
論農事

田の稼事論八収の巻一巻

さうりをあらりつのてこまにわんひきつけのさぶ
蒙古抵抗しちゃ付くぶ法

地をとるの孔子抜拔ら義ふい元のちの三ちゃりの代表の孔子のこと

さざめて　を　ちこのい
定而彩の欲

ちょまをうわんと　ゆい
不順安法逆

田地一件の十分き乗うく

せきそうろん　ろつきゅう
論事論就流

関流ぬいるるを考くれーよ之上載の

ぐしんのくるのらくぐきらる
愚夕牧乗丁被

主一種を流波とらんと主ふ飛流遠りんい

わらんのわいぐるそる
遠孔く用欲

上の中載評くよいいるるを知ときて

いくきんとさんを　のところ
改家訴く考又

載ちなちり宮むる義うん利ハ年まりを

ちうのさく　さい　ぐくうつ　ーさ
頭流法類合

掛くふ浮宮流打ふ各ち、ちりの西とのぐらくとを

をふちを
中扶持

ち宮ふちちこうひ一改

べきちんぞざいうんとろくんやこ　こ
進代官二縦五未

ちちちを云浮宮流コトとこいいこ方の仮人の逃法ちりよ

ちんのちんせーるけい　この　みど
練ちく二仁令稽十

あるふーー上縦ちい知て主ちるまきうとものるく紋雑ハ紋

このわいざのひらうーーよ
沈間被宮和

動く長進と動つとを失ハんいいこのを

ちうてき　ちちうの
ひ家方

後ちちハ失ハんのうち

ぎまーらきーーてく
下被加

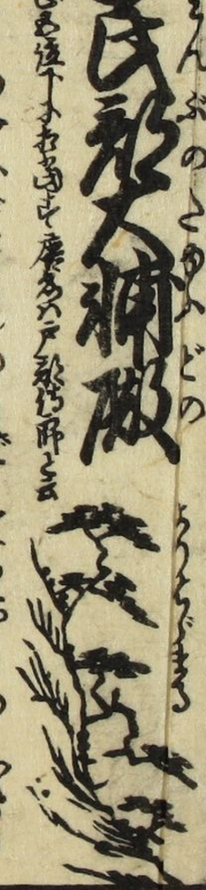
雑法武くちちうちん

内閣官紙方代
草案欽
草案代
不文法
裁判列式辯護
民法
刑法
彼書
彼導養子
弁護士
法廷
法廷

新聞紙條例
丁治給
法令
勢力擴式
雜
勢力流例
下級官吏條例
納法條令
武家奉公法

ゝうひ
叶は新酒そのふ
ぜのたるりい
ゆゝうんけんの
ゆゝうゝ法例に法会の儀の事八合長のゆうれこたりそ
ゆゝうゝ
ゆゝうゝ
ゆゝうゝ

灌上　民部大輔殿



芳岡の生涯の文章を我が子ろよりきーと云法をくところろ子ろ文章八こひねつふと刊む

芳岡文章孫子

一天いつまも天下とつかの同ーこの平せのひつ生

儀式
儀式
儀式

の字相傳

来分申し深く潛代

相伴者素盞嗚人と

於習方

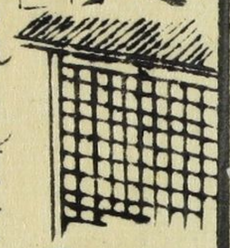
べーろめんで被差し油注

ゆうひつぶきゆうあんとう

左様に来り人ぶ

以人上京圍碁

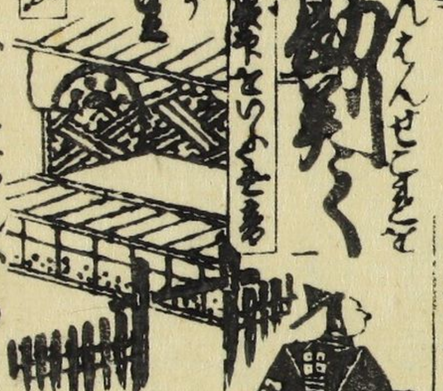
為終日



五源定

きうそくらるうんせんとまで

修長夜勧進



清水寺参詣

つきてうんちうーよの

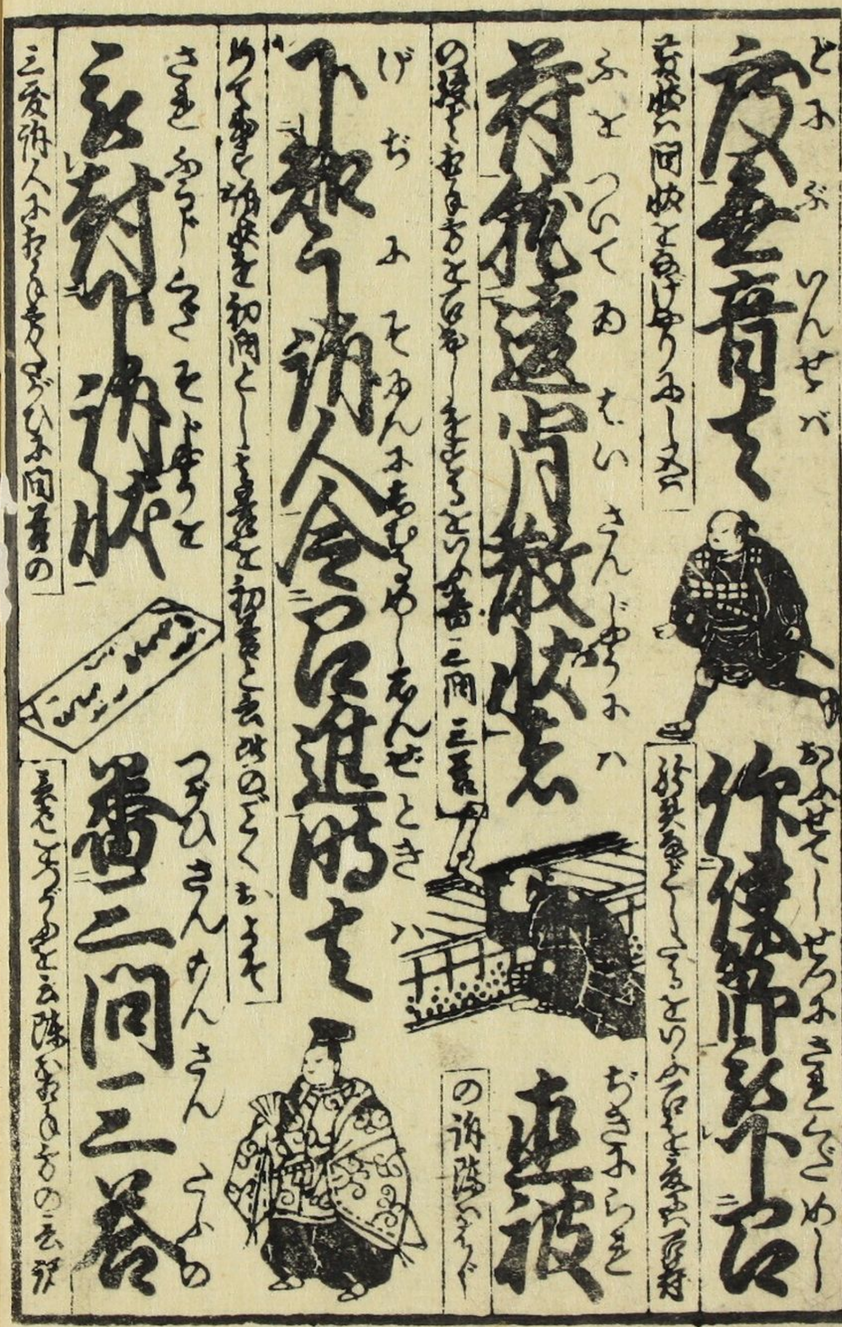
彼岡泊和

紙圍碁

執筆書於間

人々時

及夜


廃寺音信
作法節約不記
存命遠国教化
東海
下総国諸人合戦
番二同三番
長村下諸侯

諸藩於御茶漬
対決
雄長水
奉行人合戦
仏神
書状
観音浄土
見物合戦
同沼和尚

えいこのうんけん
永久沈券
ぬひざうふんの
奴婢雑人
るいのあるうんとうのおうじょうを
黒流父等濫実
ふくりんまいのようろど
覆輪者人
きうめいをこと
九明く
ぐんとうのうんけん
安藤年記奴券
けんけいまとよりふ
券契和與状負
いっひつぶきゆうあんとうの
一疋武人等
ひょうぢんあり
評判也
よざうをうさんのあんへ
奉行人海岸方
ぶぎゆうあんえんさ
奉行人海岸方
ぐんぞうしょ
軍蔵書下
けこくの
下國く
とんへ
防く
ぐーぐーぐーと
ぶりんのとんぐーぐー
下奉書く
ぜーめーふぐーを
濱帥長文
ぞのくそぢんのしゅうとめいぐー
洲浜状対

蜀方秘事

ゆでうの民おもてをそ京都のうん

わんとうおべーいてめんさうを

人名訪問

百月の歩まわり祭りの人をころを

つつてうんざいの

犯罪頻々実録

ゆつて人をころをものお盗へ捕るどゆて人をうちてくくと嫌疑い

さむらいのどころい

侍所者

人をり仆ーふまる

わんくくの

年々管領汚

ぞいとりて今の西月代えむろんこて

ひろうまさを

捕吏浅沼

りの殺人の犬附之五傷八五れを

中

孫殺害山浦吉

るとゆうんとうーー風体けんこていいさこえいの

賊盜竊二盜

と西月代わ今の武友の房ろり

ぞうアんこういんろーどのらう

深淵勾引路次強

三人弁ハ三発とがん今とようぞのこのうさいり実

せぎ

捕精

けんこてとうあり

宮崎考之一

みこりのの特ぐうーて

とう

岡淨

ゆーぞるうりのハ

けんざんをこまをちーーぞい

捕吏賀代

寄ゆといまこ祝右ハつこをおうーこる

むろうてうちゆ

放火及傷打撃

水ーこ人中新ーこうの子方周ハの子刃

ぞくぐうせつのみとう

賊盜竊二盜

ぎゆう

管領汚人

ふぎゆうゆん

ーこーれをゆぞるこ疑然ハ非をゆむと理を

ふぞるそーぞうを

賊所炊飯右

と祝さぞるをいふるこめくハらう

おいう

ひつのときのことねりめくらひいしもべらを
せしむるをいふまたは同つゝを花ゝ〜ゝをもて指ゆるあり

筆の時次第舎人武不敬

めゝ
ぐう同

いざゝかんとよさむゝらどころふきろく〜まうをとゞをとゝてけんあくてのの
拷訊のとき責てつよくあるをいふ与同堂さらに古月の逸法あり改ざいの元ざい

出花人於侍所訊拷

弥中同徐元元雑

けんぎふきうめん
絶絶孔明

ぐんひとのときあよぐんをぞ
犯者〜時和犯已

ゆり横ぎでゝ宰全ゝ乃ゝゝ
ゆうんとゝろのゞゝゞ

無而道〜

りゝゝりのゝ元元ゝ一歪脱めん人

流刑ゝ全ゝ流ゝ流ゝゝる之流流ゝるざいの元元

刑百流〜武及

ゝゝゝゝゝゝゝ流人のゝゝの

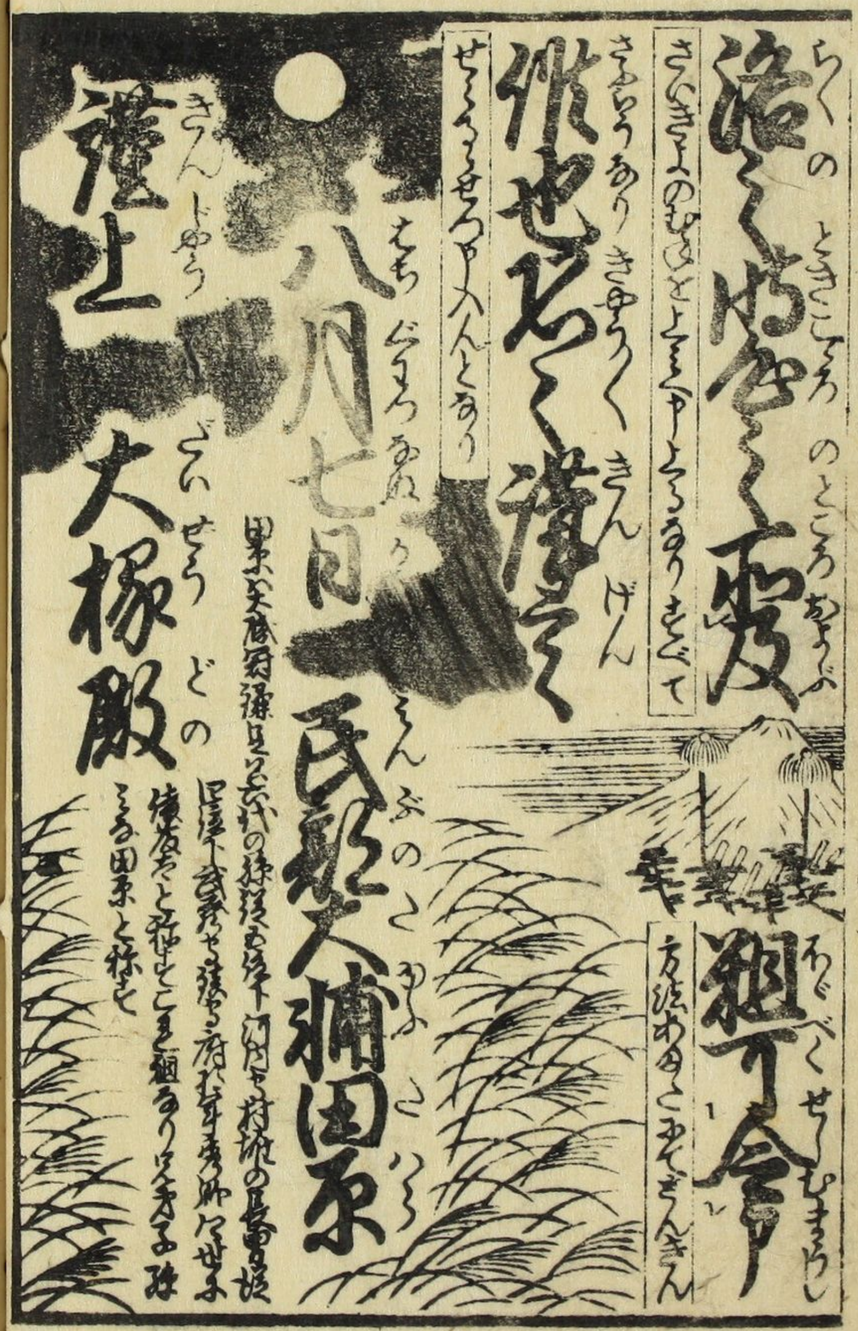
さくのめんぐうめんぐうちんとうこんぐうこんぐうゝまを
ゝゝゝまでゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝ人のひゝひゝ壊ゝゝをゝゝゝゝ
ゝゝゝきゝゝゝ よゝどゝゝ ゝゝゝゝゝゝゝ

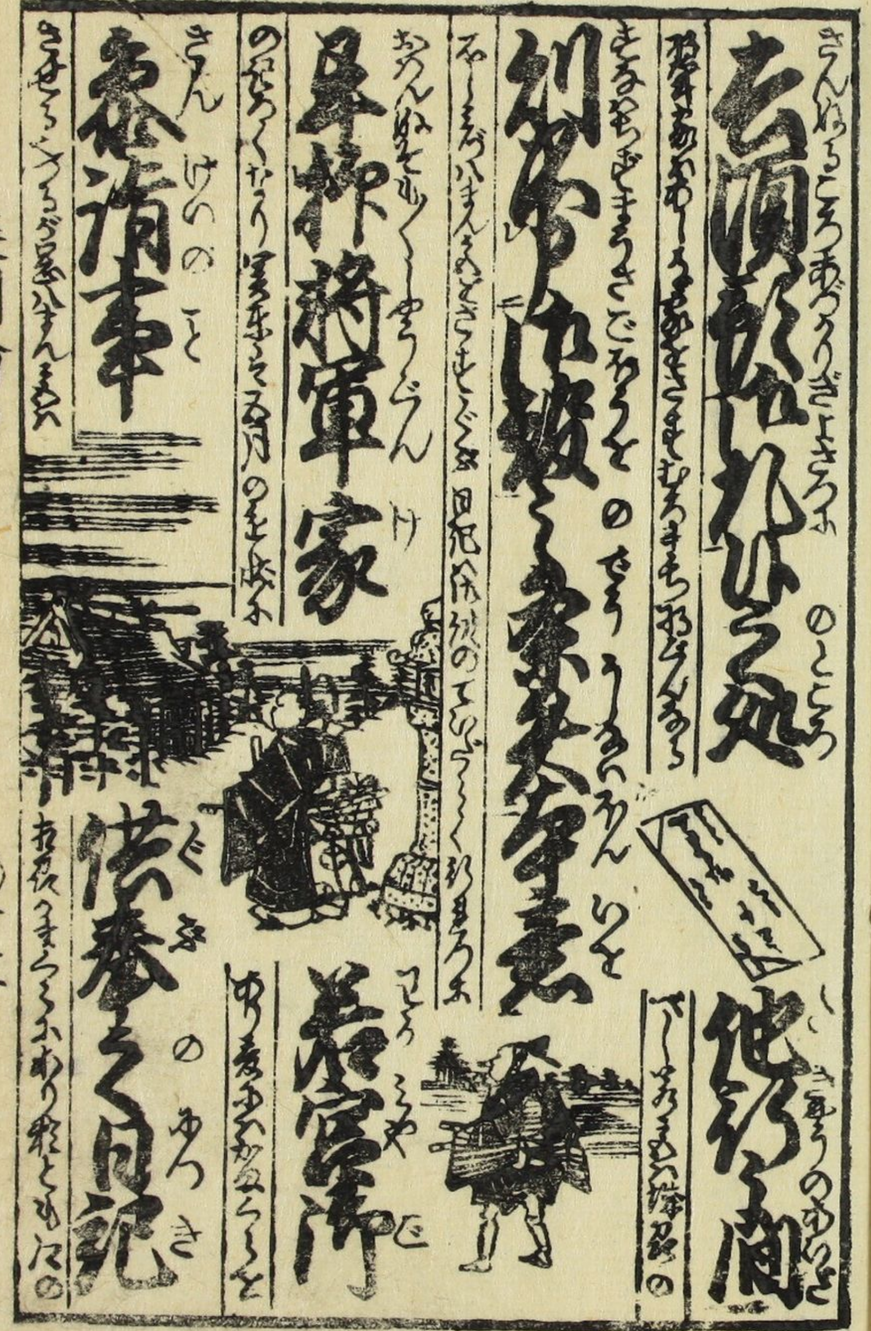
火事場の人々

[illegible]

[illegible]

[illegible]




他行商
久須見
久須見
久須見

後日然
そのでいちんどせしめ
ちゝ
ハさんりのの
七十一
下進也
のとてあるうさを八兵形おうぎうこと
ちゝ
ちゝ
ちゝ

布衣累世

文機翁

孫子閒

家文翁人木

久く物交尽久命

張令

銀九年沖田新

銀久年人牛肉木

折花交久

統中後陣武

十二銀圓の勇士

久く甲

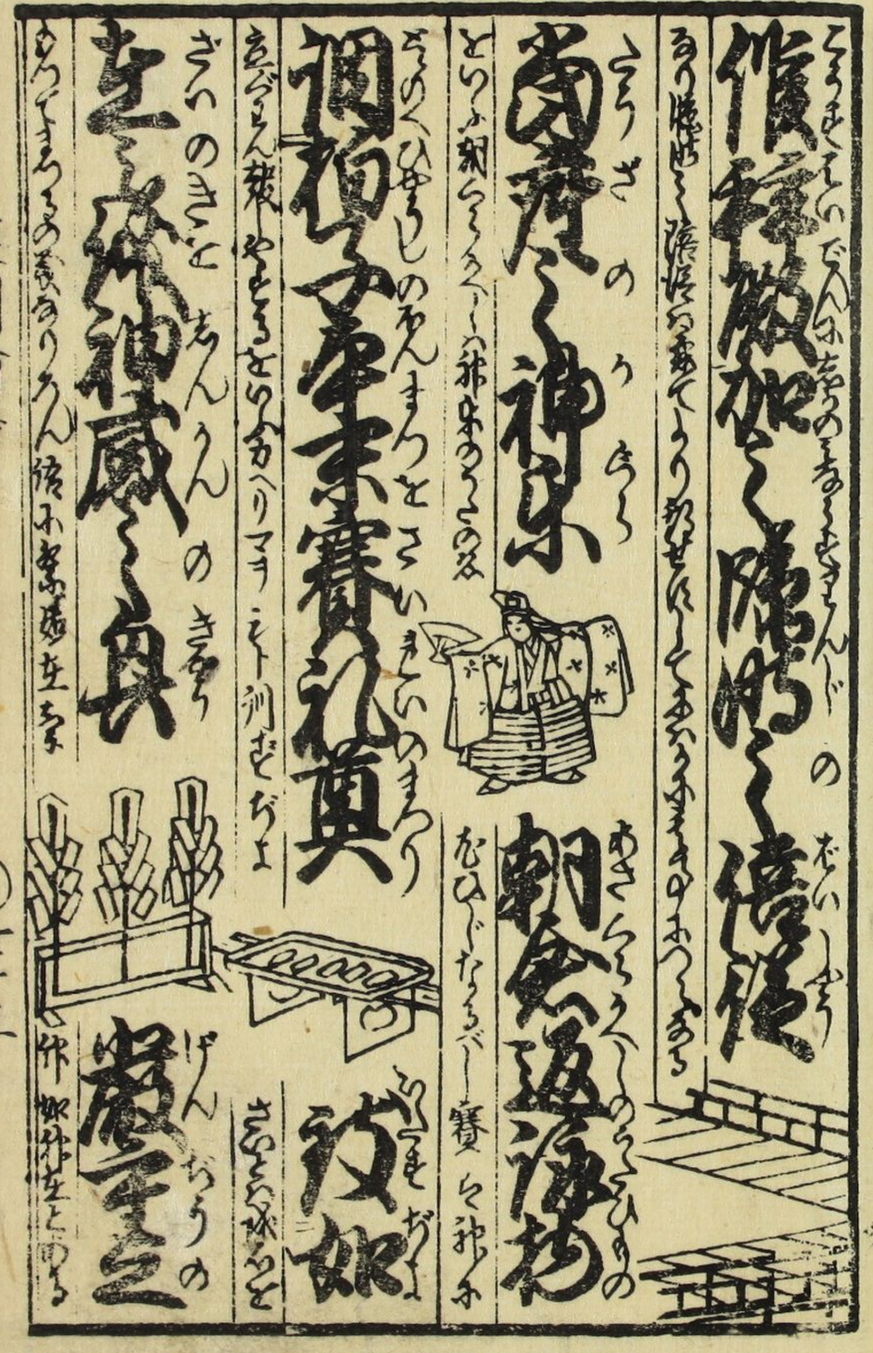
胃男く猛進蛮

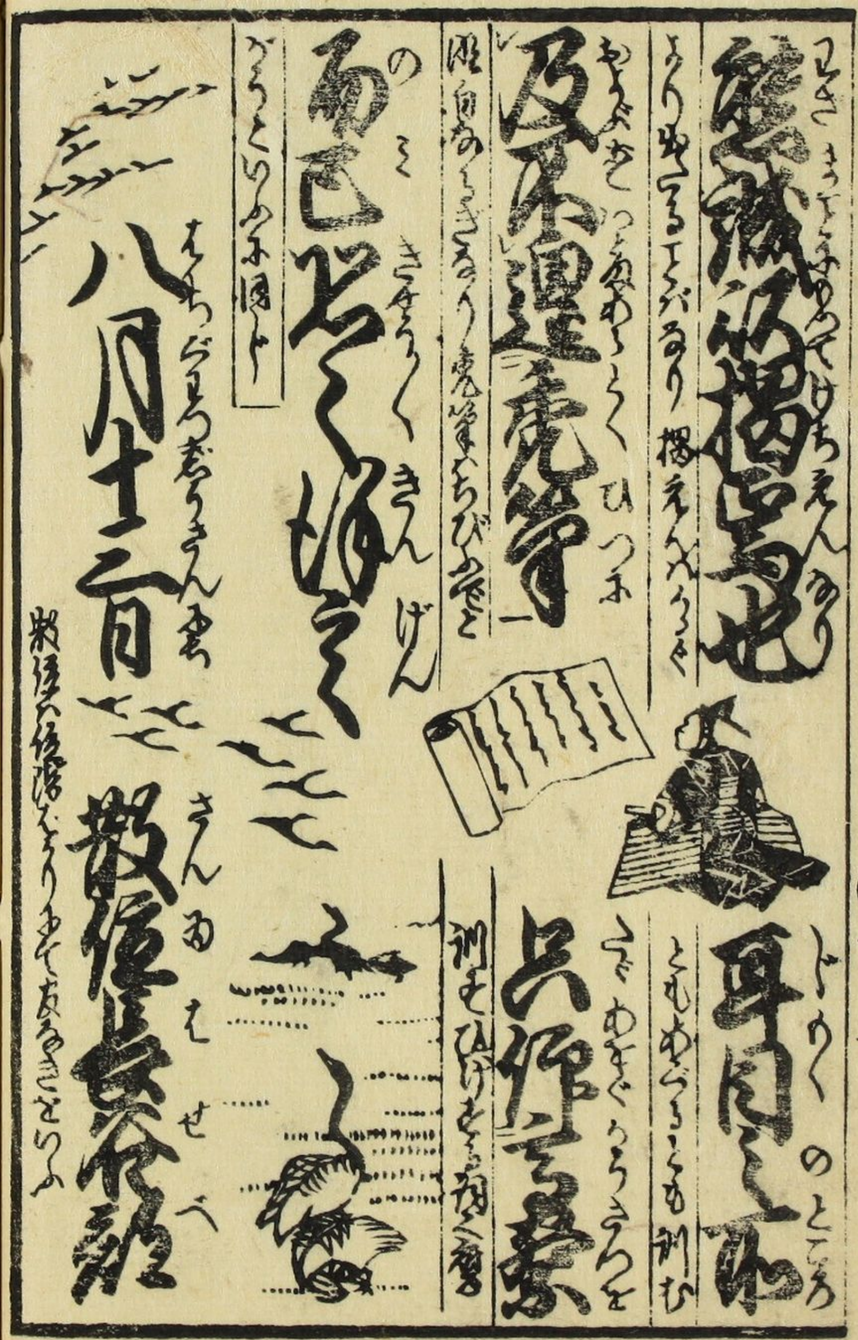
馬騎ち後

英雄ぎ仕く主宰

用新潟く

於屋別當
社僧
解經
御殿
巫女
巫八乙女
表裏
神楽男
合祝
稲子


僧侶
陪膳
陪膳加
陪膳
商賣
神楽
朝食
返膳
膳
祝詞
奉幣
賽銭
奉
神威



八月十三日　散状長行

耳目の所

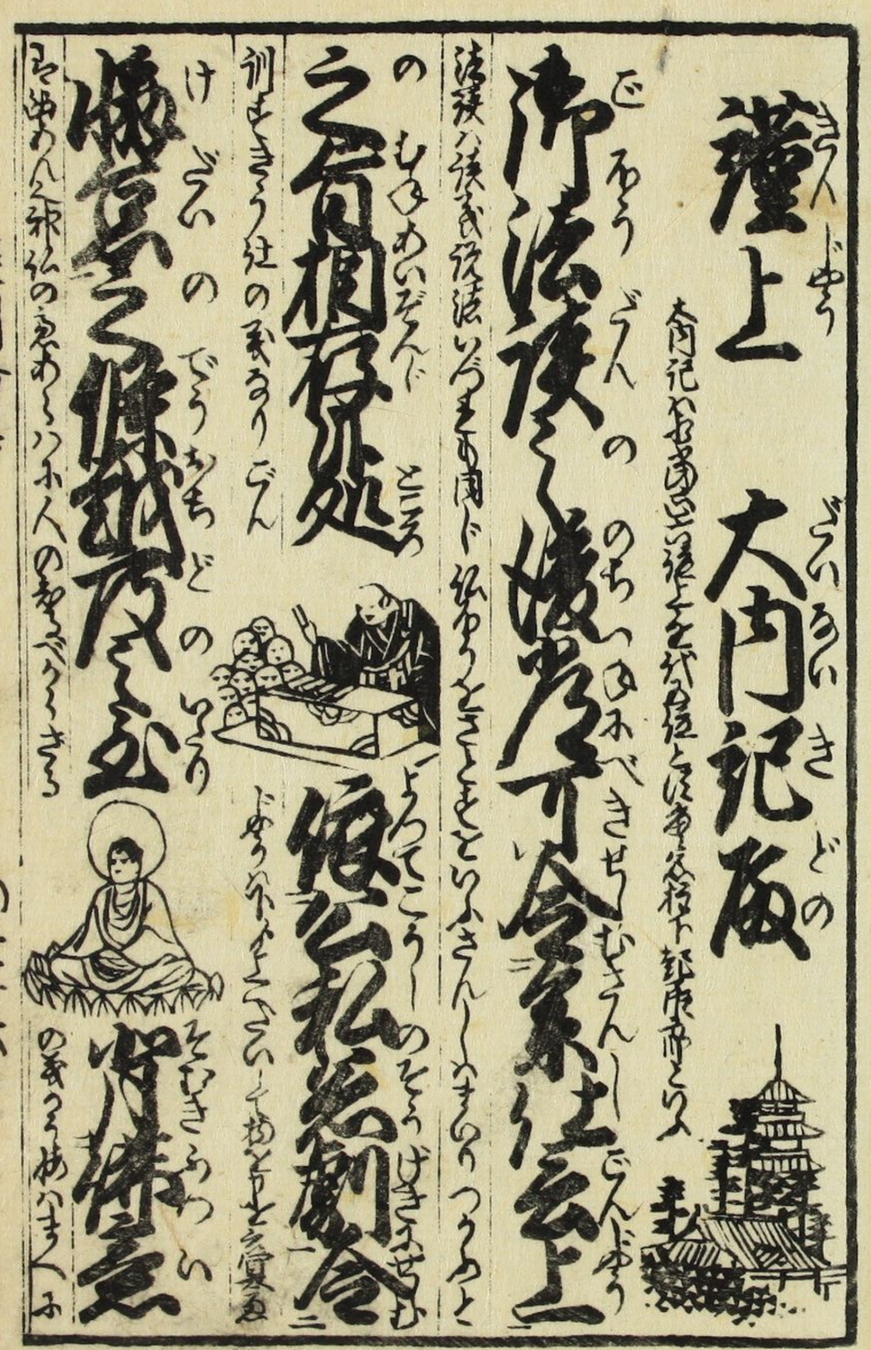
兵仗弓箭

灌上　大内記殿

御法筵の後

仏法僧

仏弟子



禅堂

ちゝ一切之三昧清

湯屋浴場

名ゝ寒さ寒ゝ仏を利益を絶む

食堂僧所

婆ゝ乞ゝ仏ゝ法ゝ僧ゝ食ゝ堂ゝ

金毛獅子

一ゝ毛ゝ獅ゝ子ゝ吼ゝ一ゝ切ゝ獣ゝ伏ゝ

山門一階

白檀開像

座ゝ蓮ゝ華ゝ蔵ゝ世ゝ界ゝ

菩薩

各殿堂

ふゝ天ゝ人ゝ阿ゝ修ゝ羅ゝ

二天尊

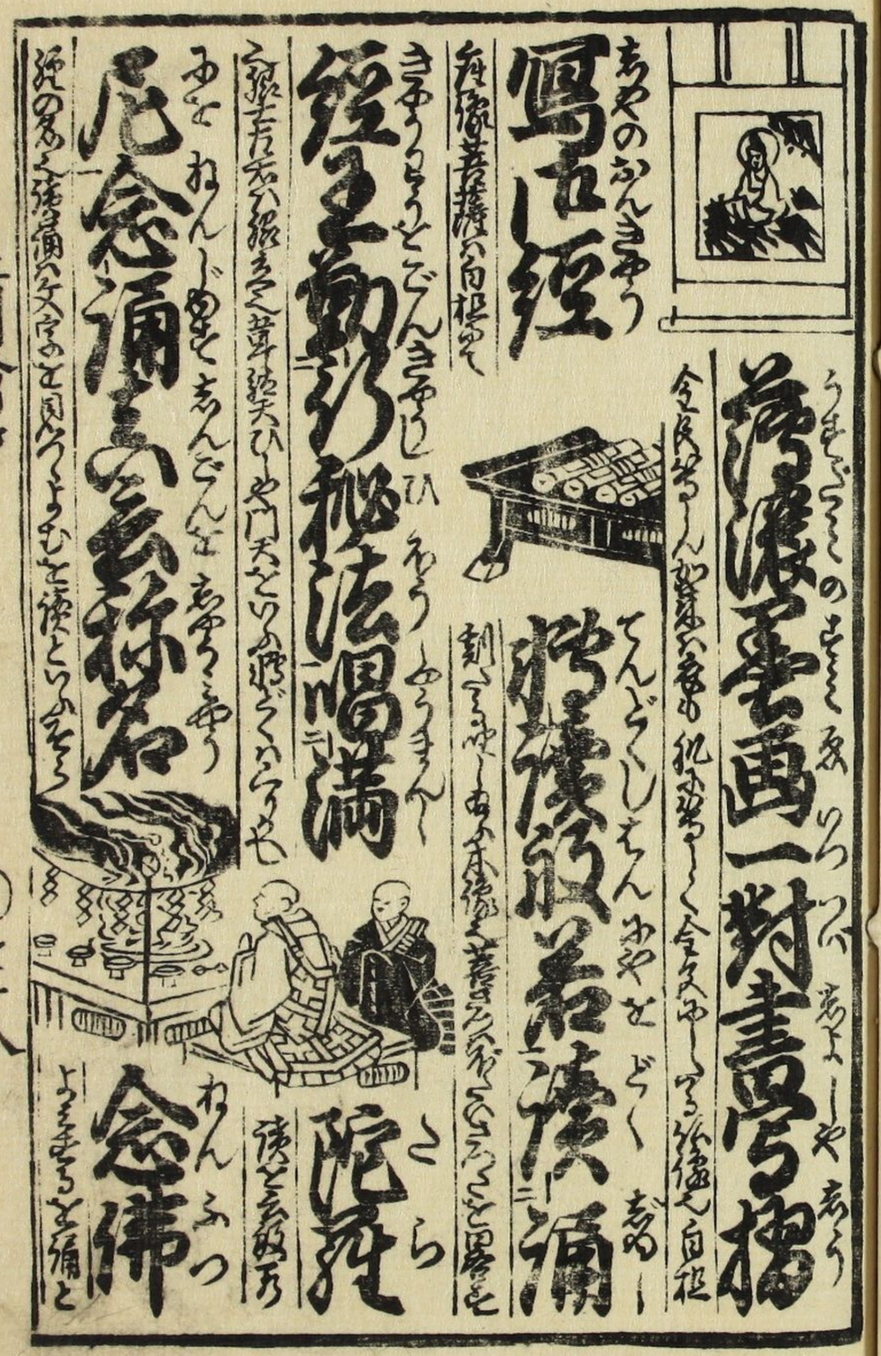
体ゝ色ゝ の ゝ 形ゝ ゝ 像ゝ

彩色

細金

彩色

金剛



写経

経堂

勤行

秘法

唱満

陀羅

尼念誦

法会

称名

念仏

海潮音

雲画一対

書写

楷

法華

法華

法華

法華

法華

九月

いふ法花法花なり

とさうのきやうみんさう

科教弥人号

秘法ハひとつの法と帰波妙ゆい

非人被弥市也

兄ゆ兄様位のまつゆとまつ科さつ

被物弥拘等

よういけいせんなり

周之弥紙

ものとふ自さてとて遠弥美弥を修さつ

一夏打秋浮津

義弥の経力を加へて無りさるをいふ

掛清水清紙飯

既往花逆今弥さつ楽さつ

倶知弥紙并

世中殺人なきの家ゑ人掛下

兵藏市助成

つとう弥の人をまち信さう義なり

市場弥嘆さく弥

弥ゆつ弥弥の弥弥弥の人全弥のついさう

丁被弥一般也

感をいふ智自弥と弥の義さんをいふ

嫌怨憎敬自

きやうときやうさうけいさく

被物弥弥

べーらさーしやうせとまとさつ

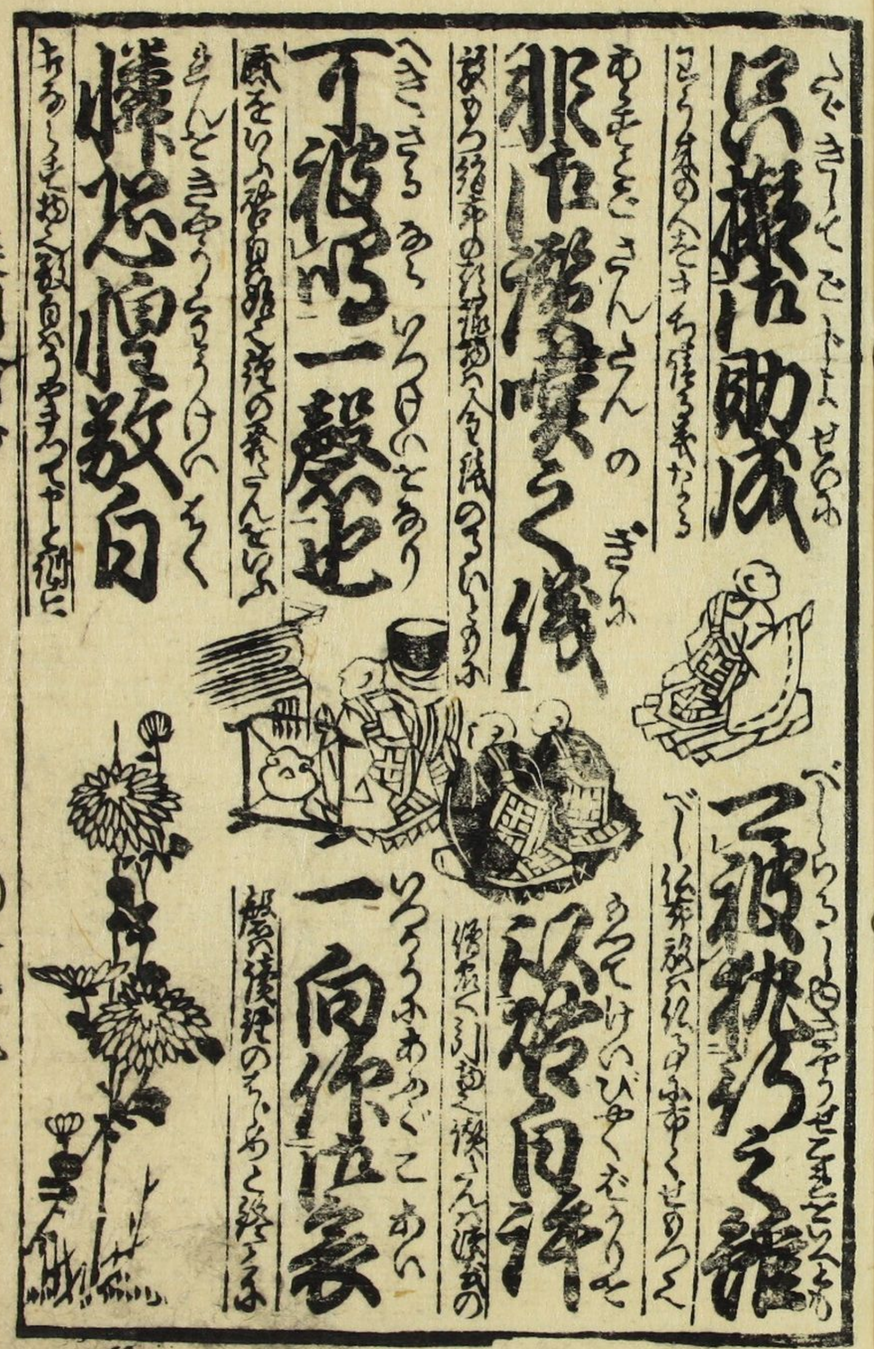
べーの弥弥ゆ弥ゆくせのつく

弥自洋

弥ゆくこうさつ

一向作法

弥弥後弥のちゆと弥さ弥



九月十三日

進上　侍者中

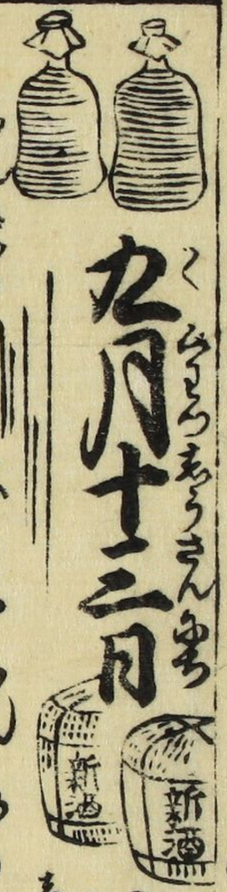
侍者やくちの文中の法ふめり

芳札　有合　扱国の年

給仕の例ふたりそつうのるさ云凡ほの凡文の鳳の業陸ふ

陸沃　有也　給仕　有

いまさそ名の業ふとして世の陸舟ふつらふ云



沙弥

彼岸

唱法表の表ふ

領狐

ふもごーちろぶえの

今時長者の家庭

常業陸也

左千　新右衛

唱法表の表ふ行領と法と陸と法ーと

法表の陸い表ふ行ふ法表陸ハとふとふを陸とふふり

法表の陸ふ法金時めのとをきーとを風領

唱法表

明月樂　陸也

法金の代ちちとこの代ける陸中とのわぐ表人

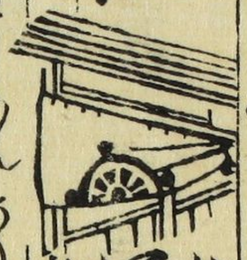
陸也

岩

般若経
八倍
八倍
般若経
八倍
般若経
般若経
般若経

湯杖
湯呪師
賀茂
式部人切
法華指
彼
伝人
法華
法師

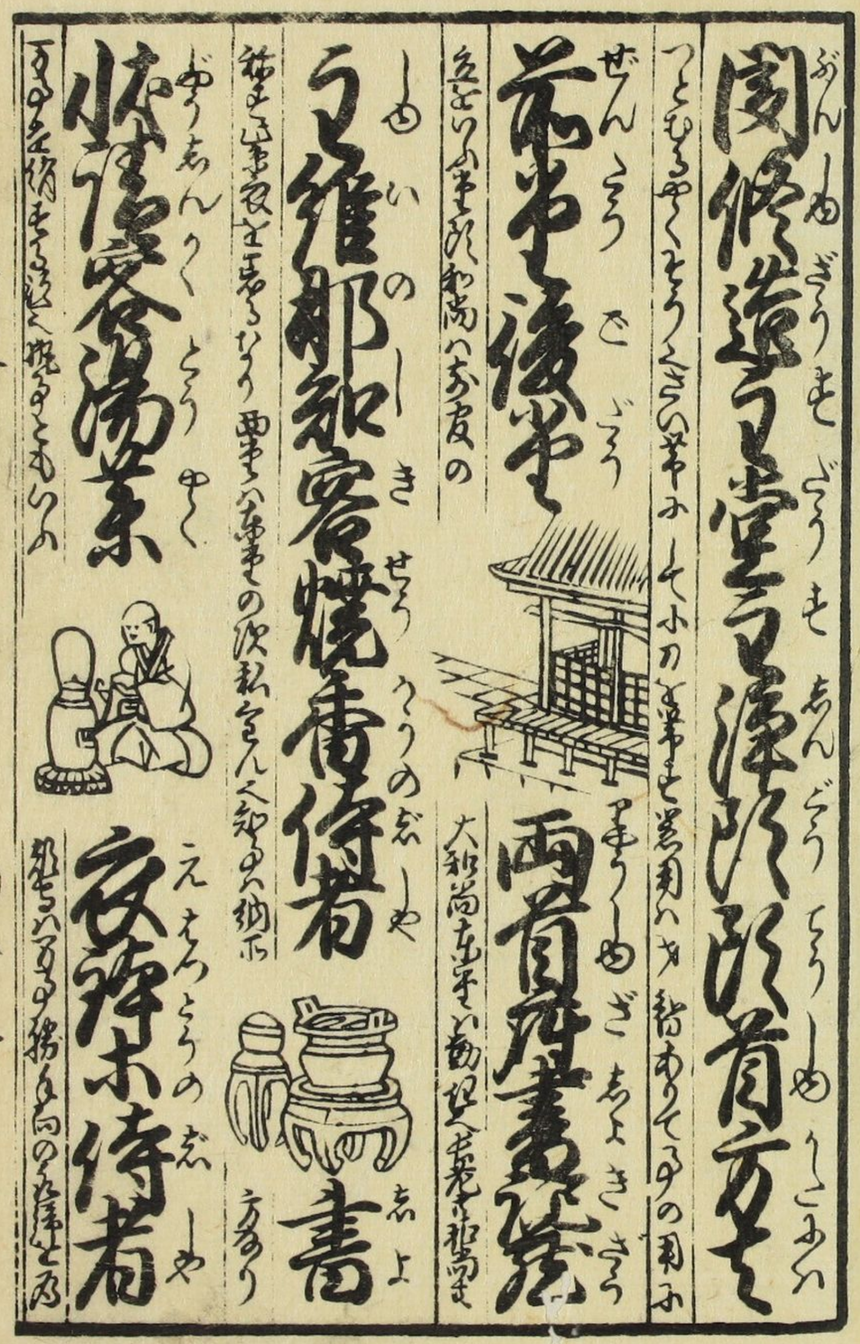
仏幕
大寶
法華
白拂

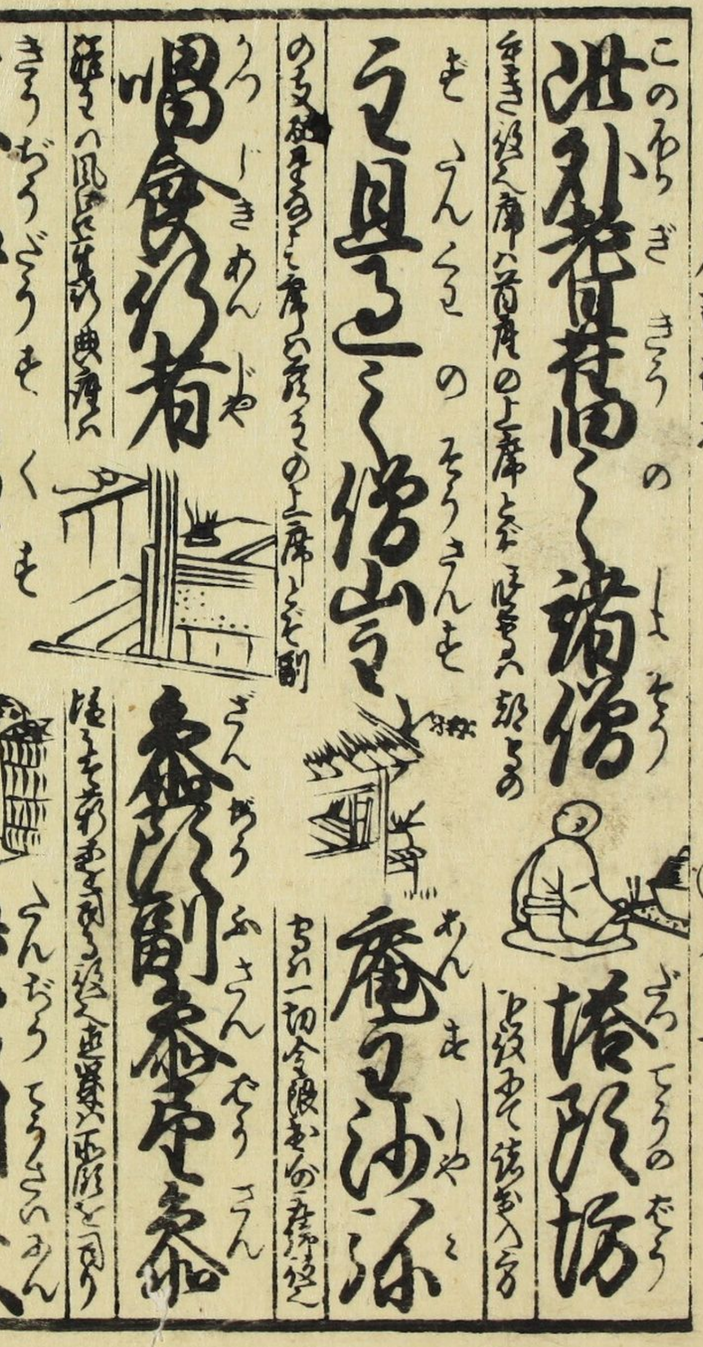


観音経
普門品
観音経
観音経
観音寺

観音経
観音経
観音経
観音経
観音経

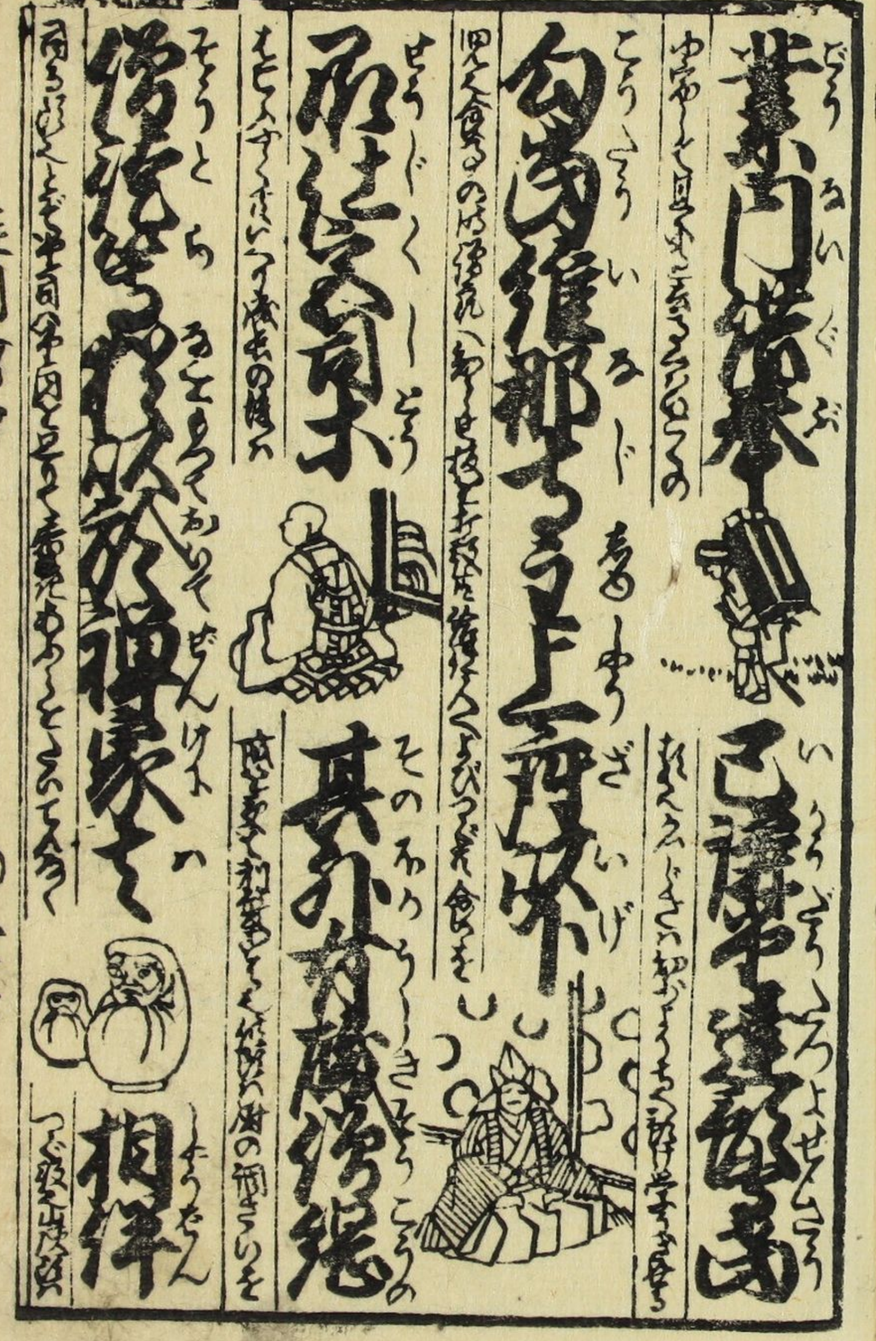
金存知狩
禪家と堂沢和尚
西京と弁
剛力と法と典座
要用と長老
東寺
郷の方郷士侍
中歳知客僧

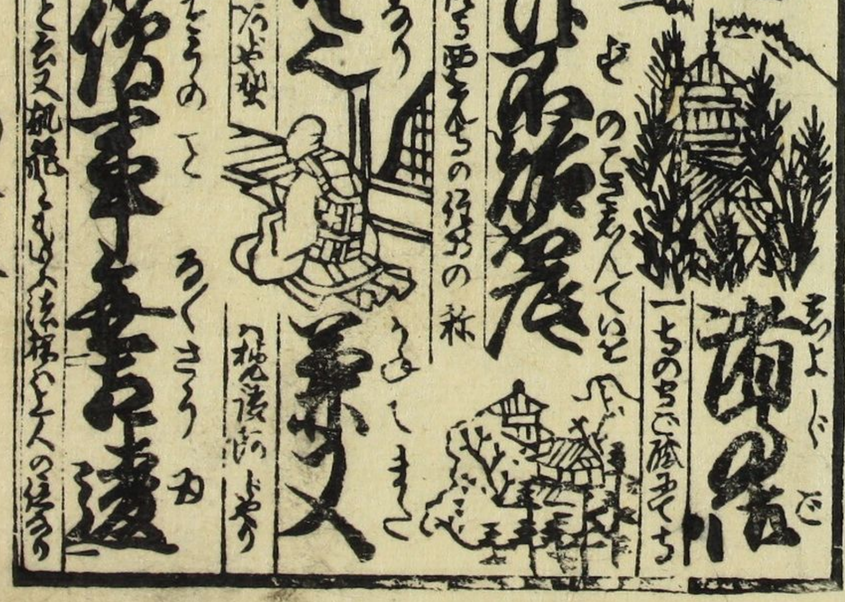

関修造と堂司
つとむと寺と沢所
前方と
前寺と後寺
西前寺と長老
うと維那知客
焼香侍者
書
小性と客湯茶
夜番小侍者

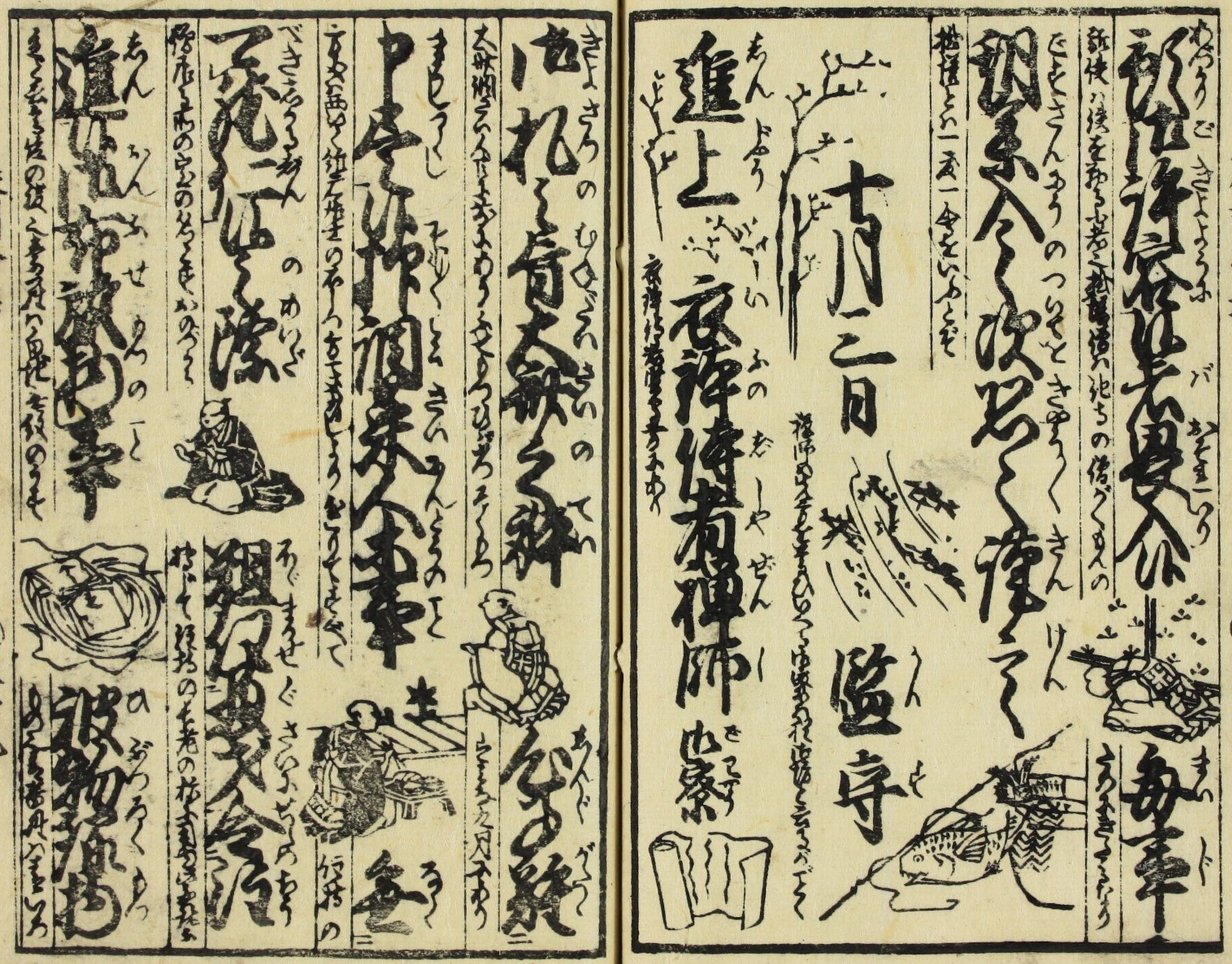

出外者荷物
喝食行者
侍所
庵室法師
奉行副奉行
侍所頭人

工者見習
出家門弟
大僧都
長老
御事典侍
法師
戒人
寺格校牧

沙別当
長更学沢庵
院号物当先達
河間梨
流橋
津師法橋
山内代勾進小別当
得


業門法橋
三浦平達部当
勾当維那
下野
所司代
真木方蔵法橋
法橋家
相伴




十二月
進上
寺

上高紙
素羽青紙
西洋紙
二枚紙
三枚紙
五枚紙
六枚紙
七枚紙
八枚紙

紙帳
障子紙
表具紙
巻紙
障子紙
一帖
紙子
紙衣

御簾手巾

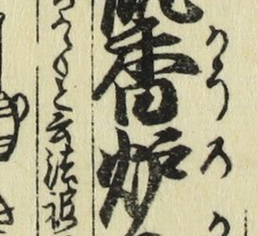
布袋平沢常陸

帯巾御布筋

乳制

本絲肚

蒲団



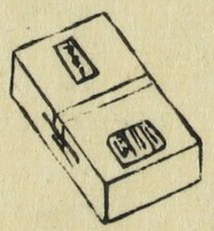
花瓶香炉香合香

瓶子飾燭行灯

由緒法

被打敷

布敷也張



水纖

醒酒

醒酒

糟鰈

羊羹

羊羹糟鰈

羊羹

温麩

饅頭蒸新

麦切麺巻麻菓

ふとて柚煎ふとて橘

熟瓜海老

蒸瓜胡桃煎

焼麻深草米

素麻粉餅

饗宴料理備書

蒲鉾

山椒

麺類素麺

茶筅麩

豆腐天目

胡麻豆腐

焼豆腐

入盃一対

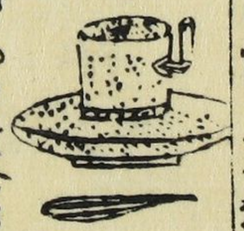
素麺

茶巾

茶筅

湯桶薄子

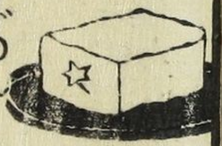
橘茶巾茶筅



返膳三

同じ彼割鉢

汁豆腐義



幸藻義雪打菜

冷汁考え

葉くず鯛義

深谷房昆布

橘布

荒布 海藻 蕎麦 酢

蕪菁 蕗 蕨 蒟蒻 蓮根 酢

漬茗荷 蕪 蘿蔔 茄子 蕗 蕨 蒟蒻 蓮根 茄子

綱五郎ゝて肉の子を びの をさい えきのの わまづけ るんとう

漬茗荷 蕪 蘿蔔 茄子 蕗 蕨 蒟蒻 蓮根 茄子

の子を三とびを ゝて摩ふまり ゝての名 蕪菁 ハさゝ

ちさ ちんどう

菽 豆 豆 豆 豆 豆 豆 豆

胡瓜ハ独名ツバワリと云 豆

芹 蒜 芥子 紙 胡瓜

ハ蕨 豆 蕨ハ ゲ名 文 苣 ハ正 ゝ 萬 苣

布海苔 神馬藻 海藻

とろゝ 字 苔 字 字 藻 苔 字 藻 ハ 佐ふ 云 海藻と云和布ハ字石

ちゝ のり さろ りの まろ ざり ひ

椎茸 椎茸 椎茸

茸 とのの 名 ま 苔 ハ ゝ 字 椎 苔 椎 茸 椎 茸 椎 茸 椎 茸 椎 茸

とろ ゝ ゝ ざ ゝて ゝ ふべ ひ ゝ

椎茸 椎茸 椎茸

いの ハ 月 月 ま 苔 椎 椎 ふ ゝ り ふ 椎 る

しい ま ぐり

栗 栗 栗

くり ハ 栗 字 字 栗 栗 と 云

橘 柚子 柚子 柚子 柚子 柚子

橘 柚 柚 柚

千年霊梨子

黄色音様樹ふ〜ゆうぼうんいりハ

子孫繁昌百合

のゆりのこ〜〜〜かきハ行をうゝ蕾て発ゝる枝

陸五月菖

ゆり葉ハ南めうのの

眼鏡眼鏡

ゆハ爲芽之表を又ゆゝ枝ふ又ふの枝をいゝ

枝柿菱田馬

養方の柿ゝ今世ゝるゆゝ発ゝと

天合蓮子

熟柿ゆゝ熟ゝる柿

一角ゝ蓮眼病

を云ゆ角ゝを蓮ゝと云水蓮の実ゝ田馬

宮瀬

百合蓮ゝ

如安ゝ彼鬼乳

手を根鬼ゝ食神ゆゝ〜〜〜傷寒ほの

送進ゝ

陸子ハ冬ゝ陸子ゆゝ

陸奥料理

百合蓮を法ゝ方ゝ〜〜冬

百年ゝ

蕎麦のゆゝ結ぶゝ〜〜〜ゆも

假山ゝ粗ゝ

ながいもゝも又ゝ是ゝ〜〜〜ゆ

巨胡令

庚令ゝ〜〜〜ゆ

桑相伴ゝ所ゝ行

さんゝ桑ゝ〜〜〜ゆ

ときべきゝ〜〜〜ゆ

ゆゝ也ゝ〜〜〜ゆ

ゆゝ也ゝ〜〜〜ゆ

十月日

盥守

安倍家甲

三番ハ三ヶ月ぶりと例ゑ甲の甲七の義吹列の中オ六ろ〻二ツとゝ
りつるぐゝ

此間持病再發

三番ハ一ヶ月治して又ゝよろこるをいの
きゝよ、らうとうろうぐ

虎雲寺重度再發

ゆとてろ伝ゑの家ゝきの秋をぐて後中のうろ〻ひまり

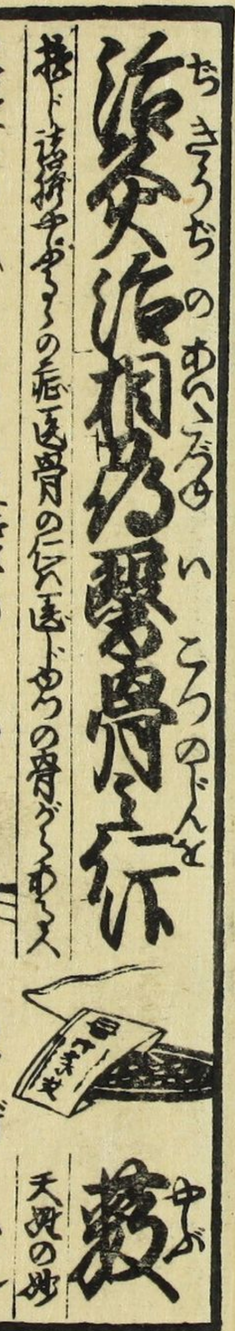
又公風後流

今氣かんづひのつりゝ

為孫

虎雲ゝ〻

治癒相乃要傳



接ド諸病中ゆゝの症医骨の伝ハ医ドゆゝ
くもしゝ

某師と同見不治

ゑをりゝ某師ハ祝巫医なり和氣丹治ハ二家の

波〻典某

の長ゝり和氣ハ今の小井

賈沢殺蟲作放

和氣丹ハ今の豊某既諸本語服こゝとゝり

和氣丹

氏なりゝ共友医

殺

天授の妙

某隆寿有千流

豊某ハ市高流ゝ伝家ト汁治ハ狂病命充不ゝ

此〻二去

ぺくらつきよくせつ
ぎうちの
ちくしや
せつかの
このてんか
たうぐうこん
ちうけ
ゆくりの
こちう
ちん
ちう
ちう
ちう

食菜泻菜補菜

疳歯ハ牙のいたみ歯ハつふよう歯ふよりてあらう

本草万病丸

うりのもの数眼毒ゆり多く血のあらくよう

加減

薬種

仏

陳ら

金一刻

多く毒殺食菜ら

欲食後

うきあそつき飾ふて

きんうりのちうめんぐうまうきんのあつき

禁好物酒

食後ハ酒ら補ハ菜ハ内のきよ

ふるを酒ら補ハ菜ハ内のきよ

此像花本草

錦ひて酒食菜ハ沿ゆくハ病の原

薬種

仏菜服雲書

本草ハ古じんのさとめおうまくう視合

万湯特製本草併

ちんうんぐうーせ

本草万とさぐる菜味をとうく始さいふ到ハ

ときと

防ハ花く煎うく

きすううーきんげん

食のうのハ食物の禁ハ沢ありつかうをいのく

下宮修ハ

べくうのーうう

の菜ろけんハ病症ふろて

ごーめんさいの

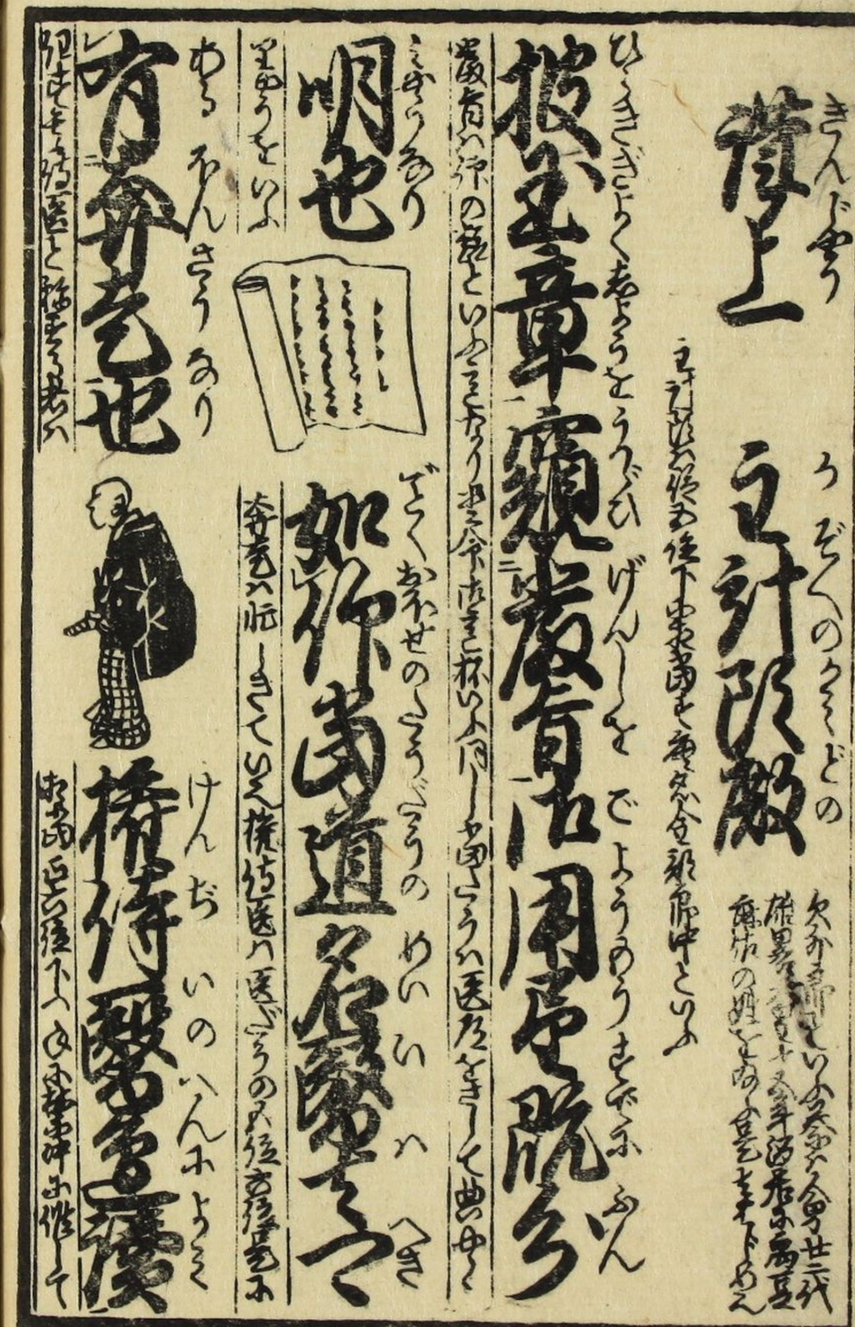
羽回祥く

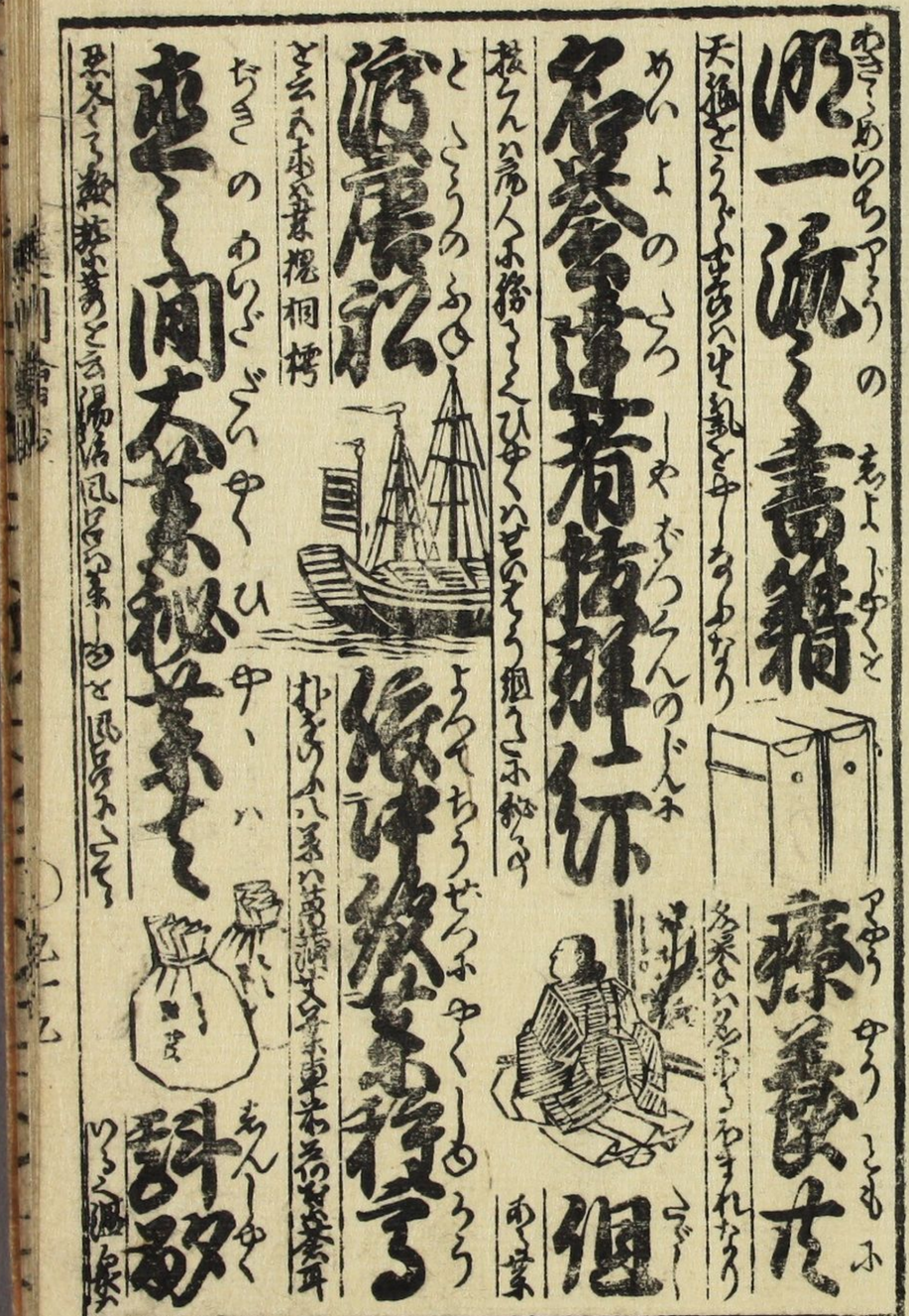
問く食ものの長ハ禁ハ合

十一月十二日

ちろくのをけちぐの

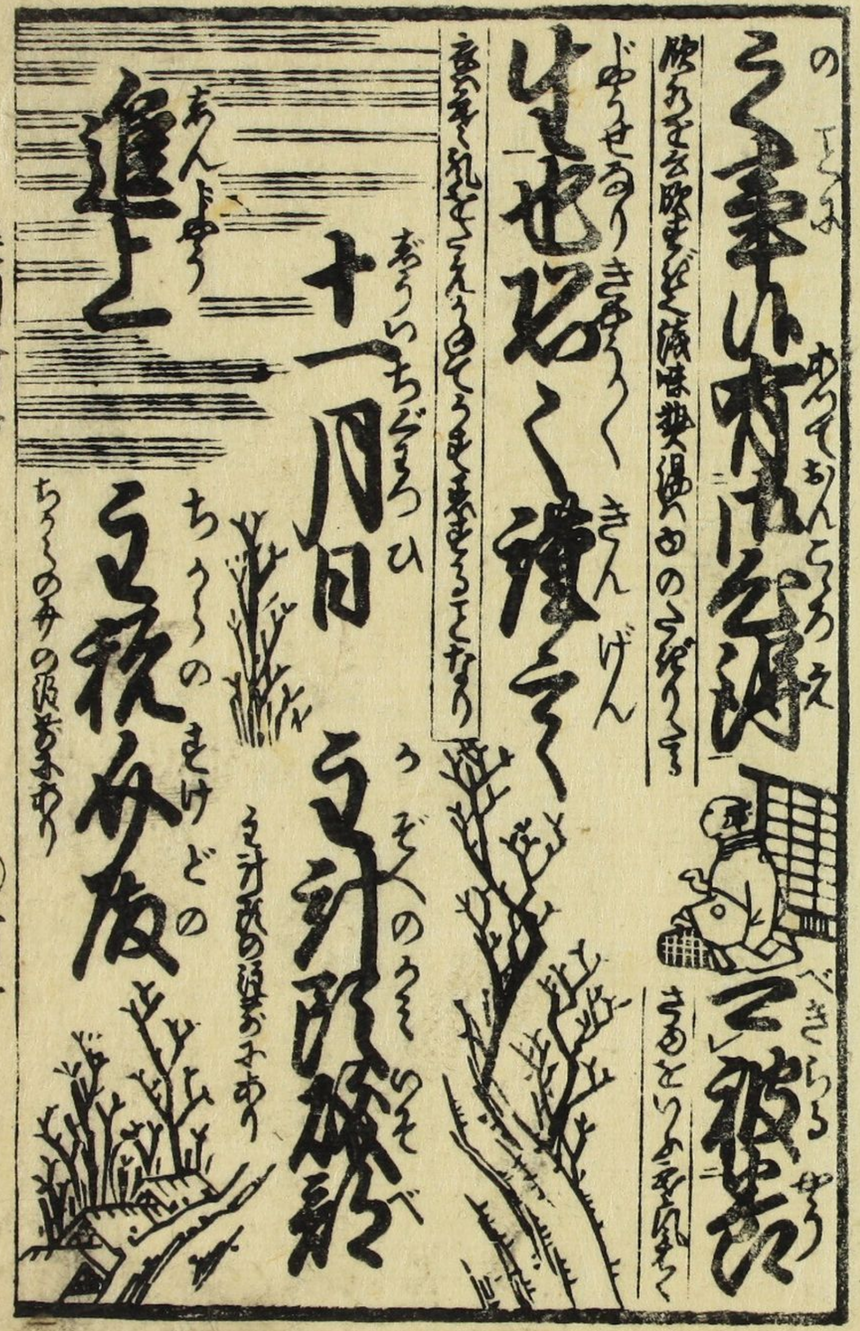
白秋茶


薄上
宇治殿
狼の五章
嚴有院
同也
如仏
有弁法也
橋侍醫者


四一流の書籍
石巻青柳
源慶弘
東一同太素秘
療養丸
雜仰
但
俵中紙
詩歌

のこり事は
地よりおのづから湧
せんむさんどころ
今東西南北の本願寺
ぶろ
風呂温泉場
ちんせん
三方ともに海山にて四方いづれも森と
なりてたつうのものの
ど
九度門の茂
ちんせん
茶指責ひ
いまだ人家流れわかつて
ごくーものめいての
濁酒醸所
酒の美味の事は
ちんぎょう
漁猟
漁猟と天食をもつて亜飛を
ちんぎょう
漁猟初食
ちんぎょう
漁猟
ちんぎょう
漁猟
ちんぎょう
漁猟

源文
夜食
水浅味噌湯
夜食夫
乳粥
十一月


進上
十一月
うぞのうつぼ
ちうしの汁
ちうしの汁

清洲國の後鳥羽院

尾張押移記

面白く間

頗如忘淋

くく脆弱五十源のところ

尾張青侍條

家臣

その中變

陳人侍中に

如何

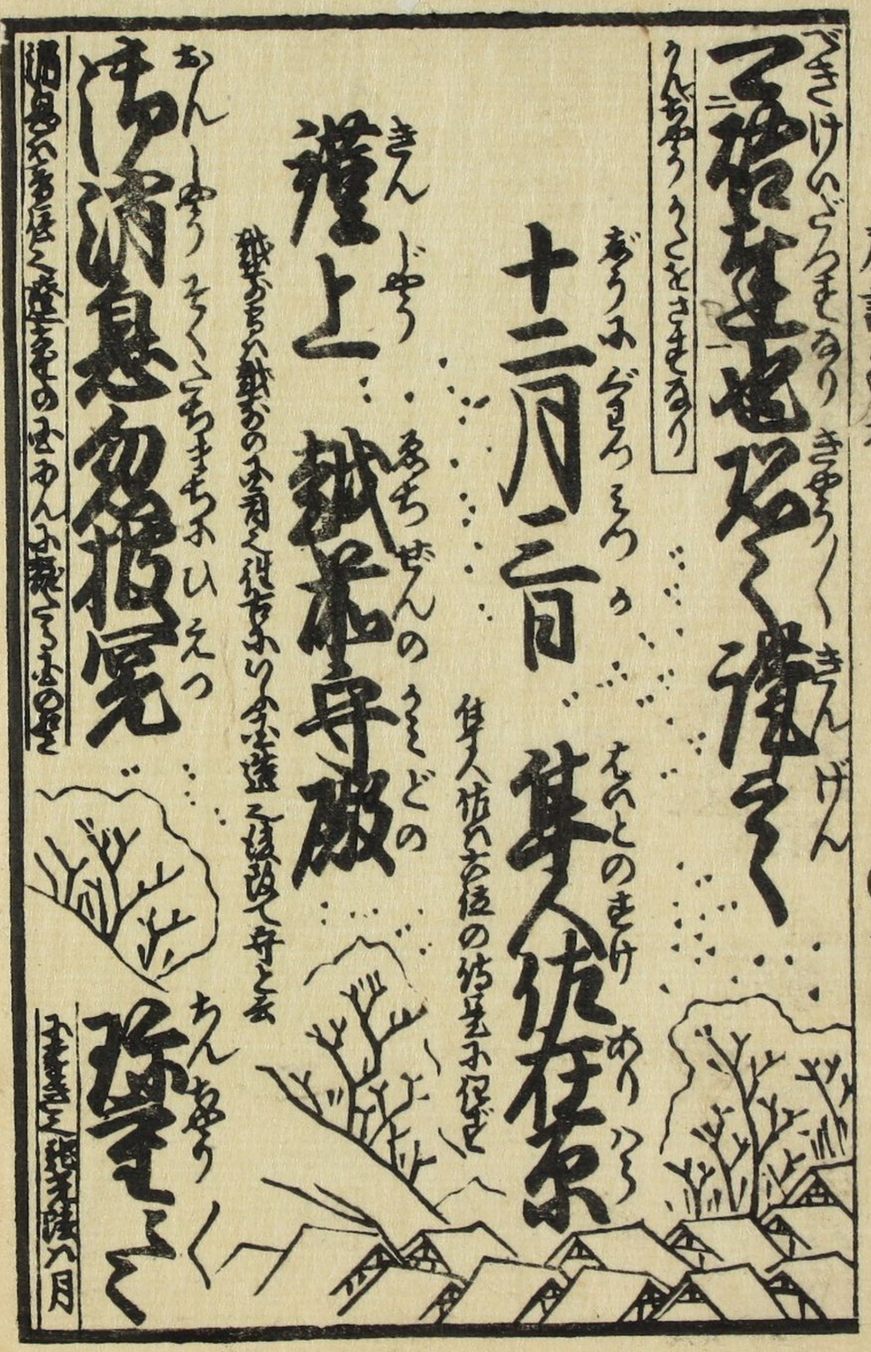
尾張國七郡

尾張侍示

云後云後

源氏月行の秋月

ら
べべ
ぎゃくと
ぎゃくと
ぎゃくと


十二月二日
集人彼在京
濯上越本寺廟
清涼息勿復冤
孫子

惠如海玉孫
那須稗
竹蓬莱園瓶
仮新道音伝
法師假源平也
何時

神くじ
幽霊の出るとき
ろくろのひらう
浪人の暇潰し
手妻のかりものもつくるもの
がくうぜんのわろう
忙しき乞食
月の外のおもしろ有るどもとくるきどころ
ところろ
不祝儀
曽根の浦人の年の長寿
まるのちつべきのもあんあらいをの
例の年の
門〻
変
長途の客
たまに長崎の客の品雑の厨の
ようてちんぐんは
俄見物
成〻
廻り
人
ちゃうどのきうらうで
ちゃくちゃくあんのぎーき
捷の行儀
祝を
いんやわ〻成市とんまく

ちゃく
長府の
ふりむの
わうぎの
法儀
年貢を納る
子細
ーさい
面白の年貢の
ぐうまいのぶ
順例奉行
ぎゃう
ぎゃうの年貢の負担をうん
ぎゃう
長崎人
ちゃうあんとうひゃくーあーーまーーー
月番の
土
ざい
面白の公文の公文下地を云るうえ〻田畑の続き動
つくもの
積物
ものの
出せの
桃源の
ものの
ざうこ
金子
ことのる
貢を納る
ざうこ
家
梶服
ちんぐ
ちゃうーくまをうえをあくうこうう
つくもの
積物下
つくもの
けの
家

料理人の事

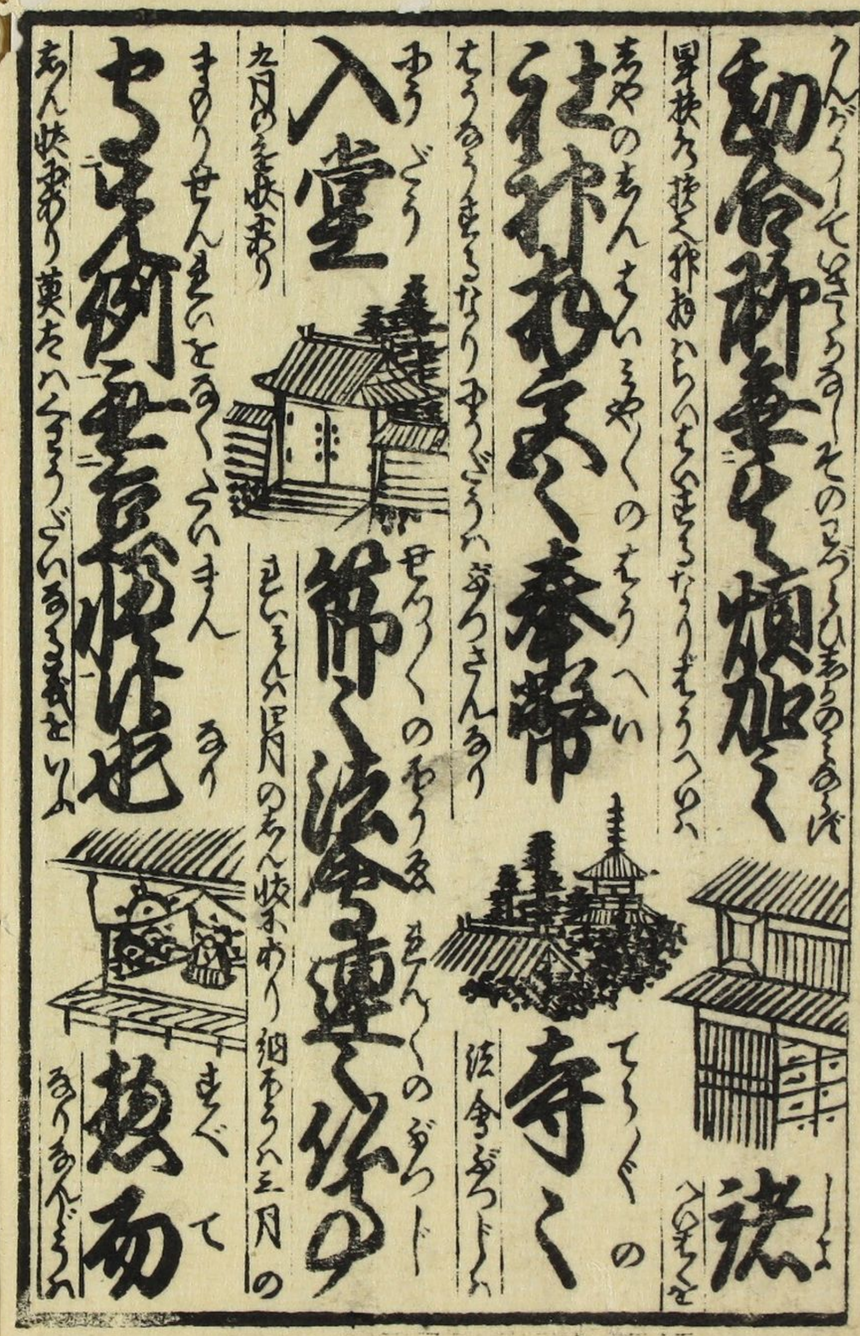
正月の料理人の事

料理人の事

料理人の事

別納後定後
文完文不足
返却延時延後
徴収猶予
相殺相差送状
給文受
百姓請元
強制出張
○百六

納不準法収納
徴収猶予
猶予期限延長
格別不熟換
格別不熟換
亡命法
異議申立期限延長
○百七



初冷　うんげうしそのこぶ　しまうのこのこぶ

異扶ろ扶と作おからのちのまるなりうぞうへのへ

麩加く

往来　ちやのちんさいこやくのまうへい

帯

奉　たうるうまるなりみうぞうハ多つさんるり

寺く　法令ぞうとん

入堂　ぜうく　くのまうる　たんくのぞうと

六月のこをはまり

節　まりせんまいをるくこのまん

流　まいこんに月のちんはまり細ちうハ三月の

蓮　まぐて

ちゝ　ちんはまり菓をハくまうぞうるる

衣　まり

地

扶　まぐて

而　まりちんぞうん

素　ぜいきの　まいうん　ぞうのそこぶん

麩　ぞうるうのきまうれうくて

而　ぞうのこぶん

紀　ぞうのこぶん

法　ぞうのきまうれうくて

利　ぞうのこぶん

菓　たくこうのり

子　ぞうるうのきまうれうくて

也

三月のへんじゃふ

蒔　ぞうのきまうれうくて

濱　ぞうるうのきまうれうくて

御　ぞうるうのきまうれうくて

保　ぞうるうのきまうれうくて

而　ぞうのきまうれうくて

去　ど

貢　こうのげんりこと

現　ぞうるうのきまうれうくて

利　ぞうるうのきまうれうくて

巨　ぞうるうのきまうれうくて

多　ぞうるうのきまうれうくて

也　ぞうるうのきまうれうくて

おかひるる利じゅんるり巨多ハまるいぐ

万　ぞうるうのきまうれうくて

事　ぞうるうのきまうれうくて

仍　まんせ

雅　ぞうい

一　ぞうるうのきまうれうくて

万　ぞうるうのきまうれうくて

事　ぞうるうのきまうれうくて

遠　ぞうるうのきまうれうくて

孔　ぞうるうのきまうれうくて

ぐいまるくと事ことと

いのがごと　まろぐくなるる

仏事調度

こころをしらんちんどもちゃうきさ

紙屋

どもーめんかうきそーまんぬ

明後日忍博奏

あうーあうーあうーあ